

「心霊治療」と「霊癒」の科学

人々の多くは、たまたま健康を損ねた時、それが、ただ一回のクシャミであっても、「どうやらカゼに罹ってしまったようだ。これから悪化したらどうしようか」と懸念したり、また、思わぬ怪我をしたり、肉体に異常を認めたとき、まず脳裏をかすめることといえば、「お医者さんにみてもらおう」、あるいは「薬局へ行こう」ということになるのではあるまいか。このような判断が、現在のわれわれ大方の「常識」あるいは「社会通念」となっているといえよう。

そのお医者さん、そして薬局というのは、国家がある意味で保護し、指定しているのである。すなわち、医師法や薬剤師法でお墨付きを与えた医師・薬剤師だからである。では、この医師・薬剤師は何を学び、何を国家が条件づけていることかといえば、国家の認めた医大・薬大を卒業し、国家試験にパスすることである。

その知識、また試験されるその学的対象とは一体何かといえば、自然科学に基づいたすべてであるということが出来る。とはいえ、医薬双方とも海外医学の上に立った学問が主流である。本源的に言えばドイツ医学が基本で、ある時からイギリス、アメリカ、フランス医学等も導入され、ついに世界的に改良された医学・薬学の上に立脚しているというわけである。

しからば、医学といえば、それで十全の医学といえようか。事実の上で世界を眺めると、単にそれだけが全てとはいえないのである。

例えば、東洋医学の一つである漢方医学がある。その上に立って、進歩した古来の日本医学というものもある。このように治療医学の領域という観点から、インドの医学を初め、民族的なものに根拠をおいているものもある。(日本だけにしても「本草医学」がある)。その他、民間療法といわれているものが時代時代を経るにしたがって数多くなっただが、伝承されてきている。

しかし、日本としては、あくまでも欧米医学が中心のようである。一例でいえば、治療効果があるということで、東洋医学、漢方医学を選択しようとしても、国家は医師・薬剤師の資格は与えてくれない。一応は欧米医学によった国家試験をパスした上でなければ医師法・薬事法等の違反で、手がうしろにまわされる。

ましてや、ここで話題として取り上げようとしている「心霊療法」とか「霊癒」とい

ったものは、いくら治療効果が優秀であろうが、事実として例証されようが、国家は問題にしてくれればこそ、かえって俗説・邪説・迷信の類いにされることは明らかである。ところが、不思議なのは宗教療法ともいえるものに関してである。それは、“信仰の上”ということであればどうやら理屈がつくらしく、あるいは祈祷効果というものを認めているのかどうか、それらに対してホオカムリのようなようである。こうした行為も“宗教の自由”という範疇に入るのだろうか。いささか矛盾を感じさせる（これは、ある時の最高裁の裁定、言うところの判例をみて、そう感じたのである）。

とにかく、日本という国の内にいる以上は、医師は病気治療に対して絶対の権利が与えられている。その医師の行っている治療が欧米の医学に基づいたものであれば、ここに絶対権を握ることになる。

さて、それでは、現代医学は不健康な人々を、また病人といわれている人たちをどれくらい名実ともに治癒させ、健康回復させているのだろうか。医学といわず、すべての科学は、その結論には必ず%をもってするが、この医師が患者を完全治癒させた数字は何%にあたるのか。しかし、そんな報告を見たことはないし、正しい統計はおそらくないであろう。

一時期大きな話題となった「公害病」を一例にとっても、当時の医学という「絶対視」されていたものの本体は、必ずしもその通りではなかったことを、それまで黙っていた民衆や患者によって暴かれたのであった。

実は、今日の日本国家で採用している医学は、まだ完全な医学といえないということ。動物の医学ともいえない。人間の医学にして、“人間の表面”にあらわれたものの、いわば「統計学的医学」に属するもので、あくまでも、人間を病気から解放させ、人間の健康を保護・増進させる医学には至っていないのである。さらに、現代医学に基づいた栄養学（栄養療法というものがあるが、もちろん、これも含めている）も、何ら人間の栄養面には役立ってはいない。本質的に言えば、実は人間の体質をむしろ悪化させているといえるほど、看過することはできない状態にあるわけである。

つぎに本題である「霊癒」を含め、「心霊治療」について以下のとおり紹介してみたい。

われわれはお互い人間であるということで、その人間の正しい人間観の認識に誤りがあってはならないはずである。それにもかかわらず、それに気づかない人が、学者を含めて実に多い。しかし、これは当然のことであろう。まして、今日の学問は、いわゆる

自然科学に基づいているということであれば、それを正しいとした理論の上で“学問”を構築し、学び、教えてきたからであり、ついにはお互いの常識にまでしてしまっているからである。

この意味を一口に言えば、いつも申し上げているとおり、「人間は肉体のみで生きている」と考えている点、これが大きな誤りなのである。「人間は霊魂で生きている。肉体という物質は死物である」というのが正しい考え方である。この点を理解し考え直してもらいたい。そして、その上に立った正しい人間観で病気を治すことを含め、人生百般を考え直してもらいたいのである。

すなわち、人間は霊魂で生きている動物であるから、まず、霊魂についての認識を新たにして、人間を見直すことである。そこに、真の人間観があるのは言うまでもなく、その（真実の）人間は、生まれたときから一生を通して、病気をすることはないわけである。もし、病気らしいものに冒されても、有り難いことには、自分のもつ特殊能力で、この病は退散させられて、将来は健康も増進し、しかも、底力に富んだ人間に更生されるようにできているというわけである。

この意味を理解しようとしても、現代医学に立脚した生理学では決して解決に至らない。もちろん、心理学でもそのとおり解明できない。今日までの常識では判断のできない。そうした従来の手法や考え方では、この主張がむしろ真実とは思えず、でたらめであるとしか考えられないわけである。

なかには一生無病で禍もなく長生きをした人もおられ、あるいは、このような人たちの生き方から、この主張を何とはなく理解されている人がいるかとも思う。

しかし、ここで述べていることが、ある限られた少数の人にそうした能力が具わっているというのではない。人類のすべてがそういった治病能力をもって生まれてきているのである。しかも、「先天的に」ということから、一般人には理解し難くさせているのかも知れないが。

真の人間には病気はない。不健康といわれる状態になったとしても、自己のもつ治癒能力で、病気は消散し、健康は回復して元気ハツラツとなる。繰り返すが、わが国では病にかかると、まず薬を考える。医者を考える。これが「真の人間」ではないというのではない。前述の間違った人間観を正しいものとして常識にさせられるまで、(文科省の)教育にされてきた今日であることが問題なのである。地域と環境により、無医村とよばれるような地域では、それに代わって民間療法というものが羽振りをきかしているではないか。それらには良くも悪くも、非科学的なものが含まれている。

何にしても、真の人間観の上に立った人間には、そんなことに心が向く前に、人間には薬や医師のお世話にならなくても、そのまま（その症状のまま）で、静かに落ち着けば落ち着くほど自然に治癒力が働くようになっているのである。あわてればあわてるだけ、その治癒力から遠ざかる。治りがおくれる。しかし、遂には治るのである。これを邪魔をしているのが、残念ながら現代医学なのである。また、同様の立場に立つ薬剤ということでもある。

本来、無病でしかも健康増進できるように造物主は人間を創造しているのである。それを、小賢しくも、唯物的観念に由来する誤った人間観によって、人間には必要もないものを、医学の名において、そして栄養学の名において、肉体の“健康を管理するもの”という大義名分(?)のもとに、肉体をより不健康にさせ、人間にとってあるまじき病気をいうもので脅かし、不安、焦心を感じさせ、しかも、そういった“病的細胞”の持ち主にさせられている現在を、一般人は知らないのである。すなわち、今日の栄養学に従った、健康確保を目的とした食養法によって、結果的に見かけ倒しの、外面だけの体質（体格）をつくりあげ、おまけに生まれてくる子どもの多くは、アレルギー体質をもって生まれてきているのである。このことにまだまだ医学は気づかぬようである。

昔は、生まれてくる赤ちゃんが、男か女かを助産師さんに聞いたものであるが、それが今日では、生まれる子に「手があるか」、「手が短いか」、「足はどうか」などと聞くとのことである。まだそういったことだけで済めばよい。生まれた時からもはやガン、ぜんそく、心臓に穴があいたままで生まれたということに至っては、一体その遠因が何であるかも明らかにされていない。それが、一つには薬剤によるものでもあるというが、実は酸性の食物によってのことである。しかし、それ以上に霊的な原因、これとの関係は絶対に無視できない。ただ、この指摘は、現代医学の現状では未知ということになっている。

たとえば、アレルギー体質を如何にしてとりもどすのか。現代医学の力では決して回復させてはくれない。現状によっても判然たるものであるが、実は、この体質を、この汚された肉体を旧に復するには心霊治療といわれているものも役に立たない。(この心霊治療といわれているが、実質は心理学か、ただ薬を用いない精神治療であるといえるものが多い)。

かくして、完全なる健康体に還元させるもの。それが外でもない「霊癒」である。霊癒によって、霊界の医師である「霊医」によるものでなければ、他に求めるものはない

のである。

世上、心霊治療家という名称で、心霊力を以て病気を治すという。けれどもこれらの人の力には限りがある。しかも、その能力のないものまでが、一片の講習修了証で治病能力を獲得したと証明されるという。治すということは、その人から病気を取り除き、以後将来的にも完全に無くすることである。病的障害物を除くのである。病を消失させるのである。これは、先天的に治病の能力が賦与されたエドワーズのような「使命」をもつ人以外にはできない。

一方で、各自には自らを癒す治病能力が具わっている。さらにこの能力を発揮させる方法をもって、他の病人を治癒させることもできる。しかし、病気を治す人はあくまでも病人自身の持つこの能力を発揮させるための助手にしかすぎない。それを自分こそは偉大なる治病能力をもっているという。これほどの暴言はない。治癒させる行為は、その病人の一生とかかわっているのである、したがって、再発、また病気になるような治し方では全癒したとはいえない。そのように「霊癒」というものには厳格な定義がなされているのである。

要するに、人間には病はない。そういうものの、自らの心身の違和で健康をそこねることがある。が、そこには自然治癒力があるので自然回復をみる。そうなると、霊癒によって病気を治すところまでは行くことはないし、また病気にはならないわけであるから、心霊治療といい、霊医によって病気を治してもらわないのが、本来の人間ということになる

しかし、実際には病気に罹っている人が多い。早くこの人たちが霊に目覚めて、今日の物質時代とはいえ、神霊主義に徹して、豊かな生き甲斐のある人々になってもらいたいものである。

そのためには、一刻も速やかに人は霊魂で生命が与えられている現実を、身をもって知ってもらいたい。

(付)

霊癒の定義と心霊治療との関連

この「心霊治療」とか「心霊療法」に、一応、定義をつけてみなければならない。とすれば、さしあたり「現代治療学に頼らない、あるいは、やや頼るところもある治療法」といえる。もちろん広義の通俗的定義である。

ついで、霊癒の定義を述べると、

- ① 霊癒とは霊界に移った医人。すなわち霊医の力による治病である。
- ② 霊癒は人間の霊体を介して霊医が肉体の変調を除去する療法である。
- ③ 霊癒も天寿のつきた人体には無効であるが、その病苦は軽減される。

「心霊治療」は「精神療法」ではない。「催眠療法」、「暗示療法」でもない。ましてや、一般に知られるように、いろいろと勝手な名をつけた療法とは同一にはできない。

また「霊癒」とは、「心霊治療」によって全癒したという意味であるが、その「心霊治療」が単に暗示とか「精神治療」といった唯物的立場に立った治療法、あるいはわが国で用いられる「信仰療法」とは全く異なるものである。あくまでも他界の居住者のうちの、医学や医術に関係あるもの（生前に医師等として医療にかかわったことのある霊魂）あるいは興味や関心をもつ霊魂が、霊能者を媒体として、全癒させる治療または治療法を意味しているのである。